議会だより

113

12月定例議会号

平成30年2月

発行 佐呂間町議会

ガスや電気なしで上手に作れるかな？　防災クッキング　平成２９年１２月９日撮影

１２月第４回定例会　特集　小学生の見る議会　２P

特集　中学生の見る議会　４P　　審議した議案　５P　　町長行政報告　８P

一般質問「教育行政について」など　１０P

議会ニュース　委員会レポート 現地調査報告　安心ハウスを視察　１３P

議員のひと言　１５P

お仕事訪問　クリニックさろま院長　鵜木 和久さんに聞く　１６P

さろま

あなたと町議会を結ぶ情報誌

町議会ＵＲＬ　https://www.town.saroma.hokkaido.jp/gikai/

特集 小学生の見る議会

佐呂間小学校6年生 議会見学

12月14日、佐呂間小学校6年生（31名）が第４回定例会の補正予算の議案審議の様子を、傍聴席から見学しました。その感想をお届けします。

議会見学で政治に興味をもつ

橋本 明佳さん

普段はテレビなどでしか見られないような議会の様子を生でみられて、特別な気持ちになりました。

私がきいた感じではむずかしい言葉がたくさん出てきていて、議会を行っている人達はそれをしっかりききとっていてすごいなと思いました。たまにききとりやすい言葉が出てきて「なるほど」と思うような所もあり、少しの間でしたが、きいて楽しかったです。

今日、町議会の見学をするまでは、正直、あまり政治に興味がありませんでした。でも、実際に見てみると議会の様子がくわしく分かり、テレビで国の政治について出たときはじっくりみてみようと思いました。

私が18才になって投票できるようになったら、今日見学したように、町についてしんけんに話し合ってくれるような人、しんらいできる人を見つけてもっと良い町になるようにがんばってもらいたいと思います。

議員を見つめる目は真剣そのもの

平成２９年　１２月定例議会号

町がよくなるよう仕事を頑張って

歳永 琉晟さん

実際に議会を見て、お話の内容がむずかしいと思いました。

でも町のために話していると思うと内容が少し分かり興味を持てながら聞けたと思います。

佐呂間町がもっとよくなるようにこれからもお体に気をつけて仕事を頑張ってください。

佐呂間町には、だがし屋がないので建てれればだがし屋を建ててほしいです。

不自由な人にも住みやすい町

川村 悠羽さん

実際に見てみて難しい言葉や億単位の数字が出てきてとてもおどろきました。佐呂間町で思っていたよりも多くのお金が使われていてもっと公共施設を大切にしようと思いました。

佐呂間町は不自由な人でも使用しやすいような場所がたくさんあり、とても住みやすい町だと思います。私はもう少し、子供でも使用できる場所を増やしてもらえたら、もっといい町になると思いました。

平成２９年　１２月定例議会号

特集　中学生の見る議会

佐呂間中学校3年生　一般質問傍聴

議員の姿は生徒たちの瞳にどう映るのか

別室のモニターで中継を見つめる

12月13日、佐呂間中学校3年生（40名）が総合学習の一環として町議会を訪れ、第４回定例会の初日、一般質問を傍聴しました。

生徒たちは議員の質問する様子に聞き入っていました。これをきっかけに町づくりに関心をもち、将来の議員候補になるかもしれません。

第４回定例会

第４回定例会が１２月１３日から１４日の間で開催され、一般会計のほか４特別会計の補正予算と条例４件などの議案審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。

・審議した議案①

一般会計補正予算

農業新規担い手宿泊施設「ほーぷすたーサロマ」

農業新規担い手確保に向けて　宿泊施設建設費の補助　１９１０万円

予算

一般会計補正で８４４０万円増

■平成29年度一般会計補正予算（第５号）

８４４０万円が追加され予算額が54億６８３７万円になりました。

主な歳出として、農業新規担い手確保支援対策事業として、受け入れに必要な宿泊施設の整備に１９１０万円を補助したほか、障がい者総合支援費に１４４１万円、法改正に伴う行政システムの改修経費の負担に８３０万円を計上しています。

農業新規担い手宿泊施設ほーぷすたーサロマを、産業文教常任委員会が現地調査いたしました。記事は14ページに掲載されています。

■平成29年度簡易水道特別会計補正予算（第２号）

69万円が追加され予算額が２億８２０４万円になりました。

■平成29年度公共下水道特別会計補正予算（第３号）

71万円が追加され予算額が２億８４４１万円になりました。

■平成29年度介護保険特別会計補正予算（第２号）

１６７万円が追加され予算額が５億４１３４万円になりました。

■平成29年度介護サービス事業特別会計補正予算（第２号）

３３１万円が追加され予算額が２億８１８９万円になりました。

特別会計の補正は、主に人事院勧告に基づく職員の給与改定によるものです。

第４回定例会

・審議した議案②

■平成29年度一般会計補正予算（第６号）

１１０万円が追加され予算額が54億７９３万円になりました。

網走海区漁業調整委員会委員選挙に要する費用を計上しています。

条例

人事院勧告をボーナスに反映　４・４カ月に

■町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

■特別職の給料額及び旅費額並びにその支給条例の一部改正

■職員の給与に関する条例等の一部改正

人事院勧告に基づき、平成29年から議員、町長、副町長、教育長及び職員のボーナスの支給月数を０・１月引き上げ４・４カ月とする条例改正を行いました。

さらに、職員の給与を平均０・２％引き上げる給料表の改正を行いました。

■乳幼児等医療費助成に関する条例の一部改正

満15歳までとしていた医療費無料化の対象年齢を、平成30年４月から満18歳までに拡大する条例の改正を行いました。高校生までの医療費が無料化され、町外高校に進学する高校生も対象となります。

その他

戸籍システムの共同利用町の追加

■戸籍に係る電子情報処理組織の事務の委託に関する規約の変更

戸籍システムの共同利用に伴う委託町に、むかわ町、当町のほか、新たに寿都町を加える改正を行いました。

■損害賠償の額の決定

ふれあいバスの接触事故による、町の損害賠償の額が決定されました。

・損害賠償の額　　２万６３０３円

■専決処分の承認

平成29年度一般会計補正予算（第４号）の専決処分について承認しました。

８９３万円が追加され予算額が53億２２４３万円になりました。

27年間使用してきた議場音響設備が故障したため、緊急を要することから専決処分を行い、機器等の更新工事に要する費用を補正したものです。

意見書

畜産・畑作に関する意見書を大臣等へ提出

■平成30年度畜産物価格決定等に関する要望意見書

国民の基礎的食料である牛乳、乳製品、畜産の持続的な発展を図るため、酪農・畜産政策の推進、意欲と展望の持てる畜産物価格等の実現を求める意見書が可決され、関係大臣宛に提出されました。

■持続可能なオホーツク畑作政策と「ばれいしょ増産輪作推進事業」の万全の予算確保などを求める要望意見書

北海道の主産地形成を担うオホーツク地域から、土地利用型畑作農業の持続的発展が図られる畑作政策の拡充、強化が求められています。

持続可能な畑作政策と、ばれいしょ増産輪作推進事業の予算確保等について、生産現場の意見を十分に踏まえた万全な政策を求める意見書が可決され、関係大臣宛に提出されました。

ばれいしょ生産の一層の拡充が求められる

第４回定例会

・補正予算質疑の中から
・請願と陳情について

補正予算質疑の中から

◎障がい者総合支援扶助費について

【質問】扶助費の利用者増とのことだが、その内訳は。

【答弁】障がい者福祉サービスの就労移行支援の利用が２名あり、またグループホーム利用者が施設入所支援や行動支援など複数のサービスを利用したことから、利用が増えており、７月末現在で延べ利用人数が84名となっております。

◎介護保険について

【質問】福祉用具購入費の増額分の内訳は。

【答弁】当初予算に比べて、現在のところ利用者が多いことから、今後まだ利用されると考え、数名分として、22万５千円を計上させていただきました。

◎網走海区漁業調整委員会委員選挙について

【質問】新しい委員の任期は、前任者の残り任期となるのか。

【答弁】現在の調整委員会の委員の定数は15名です。うち９名が公選の委員で、その中のおひとりが亡くなられたため、補欠選挙をするものです。

現在の委員の任期については、改選のあった去年の８月８日から４年間ということになりますので、今回当選されれば、その残任期間ということになります。

「網走海区漁業調整委員会」

オホーツク海沿岸の海区において、漁業法及び地方自治法に基づき設置された、漁業に関する事項を処理する機関。

主な業務として漁業権の設定等を行っている。

請願と陳情について

請願・陳情は、国、道、町政に住民の皆さんの意見や要望を反映させる方法の一つで、個人、団体を問わず誰でも提出することができます。

《　記載例　》

（本文）

〇〇〇〇〇〇〇〇
に関する請願（陳情）

要旨

理由

平成〇〇年〇〇月〇〇日
佐呂間町議会
議長　〇〇〇〇　殿

佐呂間町字〇〇町〇〇番地
〇〇〇〇　㊞

（表紙）

〇〇〇〇〇〇〇〇に関する

請願書
（陳情書）

紹介議員　〇〇〇〇　㊞

※陳情書の場合は、紹介議員は不要です。

第４回定例会

・町長行政報告①

町長より行政報告がなされました。

町長行政報告

（要　旨）

不安定な気候に農作物が影響を受ける

■**農業情勢について**

今年は雪解けも早く、作物の蒔きつけも順調に進み、生育は平年並みに推移しておりましたが、不安定な気候により農作物全般に大きな影響を受けた年となりました。

ビートについては8月以降も低温傾向が続きましたが、糖分は順調に上昇し、現在搬出作業後の結果待ちとなっています。

産地パワーアップ事業により取り組んだ大豆生産利用組合の大豆収穫については、発芽後の低温が影響し、小玉傾向とのことです。

畜産の生乳生産については、8月以降は対前年比102・3％と伸びており、搾乳戸数の減少分を畜産クラスター事業実施主体者が補い、計画していた4万5千トンを若干下回る4万4100トン程度となる見込みで、今後の生乳生産に大いに期待するところです。

生乳生産に大きな期待がかかる

酪農畜産の販売額では、乳価の引き上げや個体販売全体が堅調に推移したこともあり、当初計画83億円に対し、実績では1・5％減の81億7200万円程度となる見込みです。

全体では、計画98億2千万円に対し、実績では4・6％減の93億7200万円程度と見込まれるとのことです。

■**漁業について**

当初計画5300トンでスタートした外海ホタテ漁業については、12月20日までの操業予定で、6千トン程度の水揚げを見込み、キロ平均単価210円の高値で取引きされ、養殖ホタテの生産量も、計画どおりの1680トンが見込まれて、価格高騰から、販売額は計画を大きく上回り、12月27日をもって終了の予定です。

サケ定置網漁業は11月末で終了し、漁獲量は485トンで対前年比48・8％と半減しましたが、価格の高騰から、対前年比12％減の4億6千万円とのことです。

カキについては、稚貝付着不良や2年ガキの斃（へい）死があったため、昨年比40％の水揚げで総販売額は1千万円を見込んでおります。

本年の佐呂間漁協の総水揚げ額は、対前年比13％減の32億円が見込まれるとのことです。

■**林業について**

町有林については、造林事業・下刈事業など46箇所が完了し、現在、除間伐事業2箇所を実施中で、今後も間伐事業などを5箇所行う予定となっています。

昨年秋の積雪の影響で、造林事業量が増えておりますが、国の補助制度を活用しながら継続的な森林資源の保全に務めています。

また、民有林につきましても森林組合が補助制度を活用しながら、造林事業・下刈事業など315箇所を実施しており、民有林の適切な保護育成が進められています。

■**商工業について**

プレミアム付きふるさと商品券の販売が11月26日に行われ、商工会独自でイベントを組んで販売促進に取り組んでいます。

商工業活性化補助金につきましては6件、住宅建設事業補助金につきましては新築1件、増改築16件、トーヨータイヤ販売促進事業につきましては第2四半期まで222本の販売となっています。

■**公共事業の執行状況**

本年度の工事と委託事業については、昨年度からの繰越事業である災害復旧工事を含めて46件、事業費総額5億6300万円の事業が発注されています。

道営畑地帯総合整備事業（若佐地区）及び道営草地整備事業（オホーツク佐呂間地区）は、計画どおりに発注され順調に工事が進められており、道営畑地帯総合整備事業（サロマ東部地区）につきましては、本年度は調査設計のみの事業となります。

平成２９年　１２月定例議会号

第４回定例会

・町長行政報告②

■**恵尚会の役員人事**

平成17年5月9日の医療法人設立以来、理事長を務めておられました岩月尚文氏が退任され、平成29年11月1日付けをもちまして、新たに鵜木和久氏が理事長に就任されたとの報告がありました。

鵜木氏はクリニックさろま院長であり、平成24年1月に恵尚会に入職され、地域医療事業室長として地域医療の発展に力を尽くされています。

鵜木氏は理事長就任後も、クリニックさろまの院長として勤務を続けていただけるとの報告を受け安堵しているところですが、過疎・高齢化の中で予防医療の重要性が一層高まってきていることに鑑み、恵尚会とこれまで以上に連携し、町の一次医療体制の充実強化を図ってまいります。

恵尚会の理事長となった鵜木和久院長へのインタビュー記事が、巻末に掲載されています。

再開が待たれるルートイングランティアサロマ湖

■**ルートイングランティアサロマ湖の再開遅延**

ルートイン開発（株）の開発事業部長とコンサルタント担当の（株）日建社の社長が11月1日に来庁し、ホテルの再開準備の経過について説明を受けました。

現在、保健所に対し営業許可の再取得を進めているとともに、内部設備や施設の改修を行っているとのことですが、営業許可を取得するのに年内一杯かかる見込みであることと、これから手掛ける外部改修の資材繰り等に時間を要しているとのことです。

一番の問題は、従業員の確保が思うように進んでいないとのことで、地元や近隣を基本に募集を行っているものの、働く人がおらず大変苦慮しているとのことです。

ルートインとしても来春のオープンを目指し、この冬に施設改修と従業員の確保を行っていきたいとのことであり、予定していた再開時期の大幅な遅延に対しておわびを受けたところです。

■**固定資産税の課税誤り**

昭和50年に町内富武士に新築登記された個人の専用住宅について、建築から2年後の昭和52年に所有権が移転されたにもかかわらず、40年間にわたり、移転前の所有者に課税していたことが、現所有者のご家族からの問い合わせにより判明しました。

原因としては、当時の担当者が所有者移転に伴う課税台帳の変更処理を怠ったことによると考えられ、その後この専用住宅については登記上の移動もなく、また前所有者においても複数の資産を所有していることから、誤りに気付かないまま40年余りが経過したものと推測するものです。

誤って課税していた前所有者の方には、直ちに副町長と担当課長が出向きおわびした次第ですが、誤って納付された固定資産税については、町の要綱に基づき、20年分を還付させていただくことで了承をいただいたところです。

また、現所有者に対しましては、地方税法に基づき平成25年度からの4年間分と今年度の固定資産税について追徴させていただくものであります。

この度の課税誤りにつきまして深くおわび申し上げますとともに、今後の再発防止に向け努力してまいる所存であります。

第４回定例会

３名の議員が一般質問を行いました。
（紙面の都合上、質問と答弁は要約しています）

・一般質問①

一般質問

髙橋紀久　議員

学力向上のための取り組み 現在までの評価は

教育長：改善傾向だが全国平均以下 推進委員会で改善策を検討

教育行政について

【質問】

学力向上のための様々な取り組みにより一定の成果が上がっていると思われますが、これまでの取り組みの達成度合について、どのように評価しているのか伺います。

【答弁】（教育長）

町の子供たちの学力状況は、全国学力・学習状況調査の結果から改善の傾向が見られるものの、小学校では国語Ａ以外、中学校では全教科が全国平均以下であり、基礎の定着や学習習慣の確立に課題があります。

26年度から学力向上推進委員会を設置し、学力調査の分析や改善策を検討し、小学校の児童向けには学習課程の手引き作成、配布を行っています。また中学校には28年度から町単独で教員を配置しており、引き続き指導の充実を図っていく考えです。

また、小中学校の児童生徒が自己の学力向上に努められるよう、各種検定の資格取得に係る費用の助成も次年度考えています。

本年度は中学校の電子機器を更新し、ＩＣＴ化を図り、その効果の検証を行っており、来年度以降は各小学校での配置を進め、学力向上に役立てたいと考えています。

全ての子供たちが全国と同じような成績になるよう、実現に向けて施策を展開してまいります。

【質問】

学力向上のために中学校に教師を町独自で採用とのことですが、目途は立っているのか伺います。

【答弁】（教育長）

現在30年度に向けて各方面に照会を行っており、年明けには人選できればと考えています。

【質問】

※コミュニティスクールの導入が検討されていますが、今後の取り組みについて伺います。

【答弁】（教育長）

研修会や先進地の視察で得た情報を検討し、町としての対応策を協議するとともに、教職員やＰＴＡ対象の研修会を開催したいと考えています。そして、30年度まで検討及び検証を行い、31年度に導入することで進めています。

【質問】

佐呂間高校の存続及び生徒数確保へのさらなる取り組みとして、今後どのような施策を考えているのか伺います。

【答弁】（教育長）

佐呂間高校は、様々な活動を通じて特色ある教育を推進し、町内外から高い評価を受け、町長は、道立高校だが地元にあって町の高校とも思っています。

高校生のクラブ活動には民間バス等を利用していますが、次年度から借上げ費用についても一部助成を行い、保護者等の負担軽減を図ることも検討しています。

町ができる支援は今後も継続し、魅力ある学校づくりの協力、中学校との連携強化、さらには国際交流の推進などの施策を実現することにより、高校の教育環境を充実させ、中学校卒業生の多くが佐呂間高校へ進学できる体制を整えていきたいと思います。

> 「コミュニティースクール」
> 保護者や地域住民で構成される学校運営協議会を設け、学校の運営方針や教育活動について意見を述べる取り組み。

第４回定例会

・一般質問②

三田真美　議員

雪の積もった通学路 子供たちの安全確保は

町長：歩道の除雪は原則として優先的に行っている

通学路の安全確保について

【質問】

冬期間の通学路は、車道の除雪が最優先のため、歩道の除雪が通学時間に間に合わず、子供たちが車道を歩いていることがあります。どのように安全を確保していくのか伺います。

また通学路の街灯も暗く、今後考慮すべきだと思いますが考えを伺います。

【答弁】（町長）

町の除雪路線は２５１本、２５０㎞で、その他公共施設や福祉路線などを、町の除雪車両９台、民間借上げ車両８台、リース車両１台で、朝４時から除雪しています。

主な通学路の歩道は小型ロータリー除雪車、除雪ドーザーで優先的に除雪しており、国道や道道の歩道についても随時行っています。ただし、朝に主要道の除雪を優先するときは、歩道の除雪が遅れることもあります。

スクールゾーンには全て街灯を設置しており、一部道路状況や電柱などの関係から設置していない場所もありますが、冬期間は日没までに全ての街灯が点灯しています。

【質問】

子供たちが主に歩く側に街灯がなく、反対側にある場合に、街灯の配置や照らす方向を変える考えはあるのか伺います。

【答弁】（町民課長）

街灯は、主に北電柱に設置していますが、町道７線道路などは反対側のＮＴＴ柱に電線がないため、電線を這わせなければならず、今の状況になっています。

街灯の角度も、ＬＥＤ街灯になりまぶしくなったため、車の運転に支障があることから、下に向け設置していますのでご理解願います。

【質問】

車の運転者から歩行者を見たときに目立つよう、夜光反射材を児童に配る予定はあるのか伺います。

【答弁】（町民課長）

一般の方には広報等で、夜光反射材が必要な方は取りに来てくださいと周知していますが、要望があれば対応したいと考えています。

【答弁】（教育長）

来年度、児童生徒に配布していく考えです。

外国人研修生の地元での交流について

【質問】

町の人口の約３％、１５０名程度の外国人研修生が来町していますが、その研修先を伺います。また受け入れ先は団体、個人と様々ですが、研修生同志の交流は行われているのか伺います。

【答弁】（町長）

技術取得を目的に来町されている研修生は１２０名程度で、今後も増えていくと予想されます。水産業では６事業所、約１００名で、佐呂間水産加工組合に加入の３事業所と漁業組合が大部分を占め、あとは個人事業所が数名受け入れています。

事業所が研修生を町内や北見へ買い物に連れていったり、地域の盆踊りやカボチャ祭りを見せたりしています。

農業は法人が４戸、酪農家が４戸で３か国から20名程度受け入れており、事業所が違うため、異なる団体間の交流については難しいと考えていますが、水産業と同様、買い物や地元のお祭りに連れていっています。

第４回定例会

・一般質問③

但木早苗　議員

国民健康保険事業の改正　町民の暮らしへの影響は

町長…保険税の上昇を激変緩和措置により抑える

新年度から導入の※国保事業の都道府県単位化による町民への影響について

【質問】

町民1人当たりの保険税はどう試算され、内容はいつごろ周知されるのか伺います。

【答弁】（町長）

税額試算は現在行っておりません。２月上旬に北海道からの30年度納付金の確定額を受け、５月下旬開催予定の国保運営協議会において税率改正案の承諾、６月第２回定例会で条例等改正案の提案を行うよう準備を進めています。

> **「国保事業の都道府県単位化」**
> 平成30年度から都道府県が国民健康保険の財政運営の責任主体となり、安定的・効率的な財政運営により、制度の安定化を目指す改革。

【質問】

国が示している激変緩和措置の内容と、町民への影響について伺います。

【答弁】（町長）

１つ目は、納付金額を決定する際、一定の範囲内で激変を生じにくくする措置を用いること。２つ目は、都道府県繰入金が認められています。３つ目は、激変緩和用として積み立てている特例基金を計画的に運用することです。これらの措置により納付金額が抑えられ、保険税も抑えられるものと考えています。

【質問】

町独自の子育て世帯への軽減策について、考えはあるのか伺います。

【答弁】（副町長）

今議会に条例案を上程している子育て世帯の医療費軽減のような支援策は考えられるとは思いますが、国保制度に対しての軽減策はできないこととなっています。

介護保険事業について

【質問】

改正介護保険法により、介護利用負担の引き上げなどの内容見直しとなっていますが、新年度から始まる第７期介護保険事業へも影響すると思われます。そこで、介護保険料の引き上げはあるのか伺います。

【答弁】（町長）

65歳以上の保険料上昇が懸念されていますが、社会保障審議会でもデイサービスなどの報酬引き下げが議論されており、この動向によっては据え置くことも考えられます。

【質問】

介護給付の削減を目的とした在宅介護の推進について、町としての考えを伺います。

【答弁】（町長）

医療連携や認知症対策により、住み慣れた地域で生活を送ることで、給付費の抑制にもつながると考えています。

【質問】

65歳になると障がい福祉から介護保険優先原則のもと介護保険へと移行されます。新たに介護認定を要求され、また新たな利用負担が発生するなど高齢障がい者の生活を脅かすおそれがありますが、町の対応について伺います。

【答弁】（町長）

障がい者の心身の状況やサービスを必要とする理由は多様であり、本町では、一律に介護保険サービスを優先させるのではなく、利用に関する具体的な内容や意向を把握した上で、高齢者、障がい者が必要としているサービスが受けられるよう適切に判断していきたいと考えています。

議会ニュース

総務福祉・産業文教常任委員会の現地調査（１１月３０日・１２月１日）の報告が第４回定例会において行われました。

安心ハウス完成

委員会レポート

29年11月～30年1月

総務福祉常任委員会

新築された安心ハウスを視察

11月30日、定例会に向けた所管事務調査を終了後、現地調査を実施いたしました。

今回の現地調査では、平成29年度の事業執行状況を主眼に、若佐歯科診療所、特別養護老人ホーム愛の園、老人福祉センターを調査し、高齢者福祉住宅　安心ハウスについては、産業文教常任委員と合同で調査を行いました。

若佐歯科診療所は、平成22年に旧若佐診療所を改築、移転し診療しておりますが、従来から使用している X線診断装置の老朽化により、今年度新たにパノラマX線診断装置が導入されました。

この診断装置は、難易度の高い虫歯治療において、低被曝で３Ｄ立体映像が撮影できるものであり、診察台で映像を交え病状、治療の説明ができるものとなっています。

若佐歯科診療所の古川医師は患者の評判もよく、町内はもとより、近隣町村からの患者も来られているとのことですが、最新機器を有効活用し、今後とも安定した運営を続けてほしいと思います。

愛の園については、暖房設備が更新、施設に入った途端に暖かさが感じられ、高齢の入居者に住みよい居住環境になったと言えます。

また、煙突断熱材にアスベストが含まれていたため、除去工事をしたところです。

愛の園は昭和50年の建設以来、増改築を経て、終のすみかとして入居者が安心して過ごせるよう運営されておりますが、今後とも適切な維持管理を望むものであります。

老人福祉センターについては昭和59年に建設され、高齢者に利用されていますが、施設が手狭になってきたことから、利用の少ないステージを撤去し集会室を拡張、内装を一新しました。

今後も幅広く利用される施設として、適切な維持管理を望むものです。

安心ハウスについては、郊外に住み、買い物や除雪作業など生活に支障をきたす独居老人が、低所得でも入居できる１棟６戸の集合住宅として建設されましたが、クリニックさろまに隣接し、更に老人福祉センターに近く、買い物等にも困らない場所であると思われます。

共同玄関がオートロック式で、各戸に鍵があり、防犯面も安心と思われます。室内は、パネルヒーターと電磁調理器設置で火災の恐れがなく、各戸にトイレもついており、男女別のシャワー室も完備され、高齢者も安心して住める住宅であると感じました。

安心ハウスの居室はバリアフリー

議会ニュース

・委員会レポート

産業文教常任委員会

新規担い手宿泊研修施設を視察

12月1日、定例会に向けた所管事務調査を終了後、現地調査を実施いたしました。

今回の現地調査は、平成29年度の事業執行状況を主眼に、富丘の宍戸牧場、農業新規担い手宿泊研修施設、佐呂間中学校、町立図書館の調査を実施いたしました。

宍戸牧場については、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業を活用し、搾乳ロボットを配備したフリーストール牛舎を整備し、今年４月から稼動しております。

今回整備した牛舎は、ロボットによる搾乳や、乳成分値から牛の状態を読み取れるなど、効率よく牛の管理ができるもので、施設を有効活用し、牧場が目標としている生乳出荷２５００トンを目指して、町の酪農発展に貢献してほしいと願います。

家財道具一式が揃っているほーぷすたーサロマ

農業新規担い手宿泊研修施設については、農協が実施主体として、町農業新規担い手確保支援対策事業補助金を活用し、宿泊施設を建設したものです。

町内に体験実習に来た方を対象として、農業体験１週間、農業実習１ヶ月、新規就農３年間などの利用期間を設定しており、長期滞在の場合は、施設管理料と光熱水費の負担があるとのことです。

施設は１棟４戸で１ＤＫ、バス、トイレ、エアコン、ベッド、テレビ、炊飯器も完備されており、持参すれば、後は着替えなどを持参すれば、すぐに生活できるようになっています。

農協の鈴鹿組合長から、農業研修に限らず佐呂間町を体験してもらうために活用してほしいとのお話しもあり、後継者が不足している本町において、町の農業発展のみならず、将来の本町の活性化に繋がることを期待いたします。

佐呂間中学校については、今年度ＩＣＴ教育環境整備事業として、視聴覚室に生徒用のパソコン44台と、教師用のタブレット４台、職員室にパソコン15台、教室に映写用プロジェクター等が整備されました。

映写用プロジェクターは、授業で映像を映し出し、拡大や文字書きなどが簡単にでき、黒板と比べ効率の良い授業ができるとのことです。

また、視聴覚室では生徒全員がパソコンを使用し授業を行いますが、教師のパソコンで、生徒一人ひとりの画面を確認できるとのことです。

調査時、生徒たちは12月の父兄参観日で発表する、グループでの研究発表の課題に取り組んでいる最中で、今後においても活用していただきたいと考えます。

館長から新しい図書館システムの説明を受ける

町立図書館については、今年度、絵本コーナーの本棚と図書館システムが更新されました。

絵本コーナーでは、一部を除いてカラーボックスを使用しており、地震発生の場合は崩れる危険性がありましたが、木製の頑丈な本棚が設置されたことで、安心して絵本を読むことができるスペースとなりました。

また、図書館システムについては、蔵書管理のみならず、町民にとってもインターネットでの蔵書検索、読書履歴の管理や、子供向け図書検索など、利便性の向上が図られたものになっています。

議会ニュース

・増毛町議会が視察来町
・議員のひと言

議会運営委員会

第４回定例会運営について協議を進める

12月12日及び14日、第４回定例会にかかる提出議案等についての協議を行いました。

町立診療所に関する特別委員会

クリニックさろまの運営状況を聞く

11月30日、クリニックさろまに導入する健診システムと、それを用いた健診事業の概要説明を受けました。システムの効率的な運用により、健診受診者の拡大と、町民の健康増進が期待できるとのことです。

また、平成29年度の患者数の推移について、外来患者数が増えているとの報告を受けました。医師２名による診療体制が、町民の信頼を得ている結果であり、今後とも安定した運営を願うところです。

議会活性化等特別委員会

改選後の活性化の取り組み方針を確認

11月16日、改選後初となる特別委員会では、今後の議会活性化の取り組み方針について協議しました。

本町議会では、議会の活性化の取り組みをルール化するため、議会基本条例の制定について話し合いを進めています。

委員会では、議会基本条例に議会懇談会を毎年開催することや、議員自身が襟を正すようなルールを含めた中身にしてはといった意見が出されましたが、今後も議会活性化の取り組みを進めていきながら、議会基本条例の制定に向けた話し合いをしていくことで確認をいたしました。

増毛町議会が視察来町

特別養護老人ホーム運営について学ぶ

11月８日、留萌管内増毛町議会の産業厚生常任委員ら９名が来町し、特別養護老人ホーム愛の園の運営状況について、議長、町長、櫻井園長らが対応しました。

増毛町においても町立の特養を運営していることから、運営の方向性を見極めるため、当町の特養運営の実態を学ぶとともに、愛の園の施設内を視察されました。

櫻井園長の説明に耳を傾ける増毛町議会一行

議員のひと言

原風景

年も改まったある日、幼児からお年寄りまでが集う行事に参加させて頂きました。

おじいちゃん、おばあちゃんがソバをうち、モチをつく姿を、お父さん、お母さんも慣れた手つきで串焼き、たこ焼きを作っている姿を、また子供達の嬉々とした笑顔を見る時、自分が子供の時の楽しい時空間に引き戻される感覚を味わいました。

時代が変わっても流れ続く、地域で子供達を見守り育む姿に、ここち良い時間を過ごすことが出来ました。これからも続いていって欲しいし、参加しなければならないとの想いを強くしました。

新しい物にばかり目が行くこの頃、長い間守り続けられるべき物も沢山ある事に気付かされ、空を見上げるばかりではなく、足元を見つめる目も持ち、一歩一歩進んでいかなければならないと人生を振り返り、想いを新たにしている今日この頃です。

（山内　一弘）

町の診療所として診療科を問わず対応します

鵜木 和久

昭和52年生まれ　秋田県能代市出身
帝京大学医学部卒
産業医、認知症サポート医、スポーツドクター

お仕事訪問

クリニックさろま 院長　鵜木 和久 さん に聞く

佐呂間町で働く人の生の声を通して、みんなが住み続けたい町づくりのありかたを探ります。（聞き手：佐藤 昭男 委員長）

自己紹介をお願いします。

帝京大学に入る前に、道教育大旭川に行っていて、嫁さんとはそこで出会いました。

医学部卒業後は、能代市の病院で研修医を務めましたが、田舎だったため、全ての診療科を回ることもあり、そこで地域医療に興味を持つようになりました。

クリニックさろまについて教えてください。

町の診療所として、対応できるものは対応しています。

設備としては、CTが非常に高性能なので、今後積極的に使いたいです。まずは人間ドックに導入して、来年度以降、がん予防のための健診にもつなげたいです。

佐呂間町について。

5千人規模の町の中では、完結した機能を持っていて、自分たちでやっていける力強い町だと感じています。冬はスキー場が近くにあっていい環境ですね。

最後にひとことどうぞ。

眼科や皮膚科など、診療科を問わず対応します。

冬季に薬がなくなったけれど、遠くの病院に行けないという人も、薬を処方できますので相談してください。

【取材メモから】

休日には温泉に行くほか、そば打ちや、陶芸など多方面に興味を向ける一面も。研修医時代に培われたであろう活力が垣間見えました。

クリニックさろまへのお問い合わせは ☎ 01587−6−7611

発行　佐呂間町議会
編集　議会広報特別委員会
〒093-0592 北海道常呂郡佐呂間町字永代町3番地の1
☎01587-2-1291　FAX 2-3368（役場兼）